

「ドン、ガチャ、ガチャ、キヤール。家と物と人が一度にゆめいた。昨年の大地震。わたしは初めての地震だった。その時、何をすべいいのか、考えもつきませんでした。自分の周りでは、もう、すでに、食器がなからは、お皿が割れて落ち、ふみ場もなくて、それに続けて、家はゆりかごのように、ぐらぐらゆれてわたしのいた部屋は、見る見るうちには、ぐちゃぐちゃになていて、たのです。そんな、ゆい体験をして、わたしは、一夜、車で過ぎ、次の日から一週間くらい、避難所で、みんなと協力しながら、余震が続く中、精進、はいがなりました。

そして、大地震から二週間後、ようやく学校のみんなと会える日が来ました。でも、残念なことには、わたしは通う四郎丸小学校は、柱にひびが入り、使えなくなてしまいい、一、二年生は、特別教室で勉強をして、三年生、四年生、五、六年生で、市内の学校にバスで通うことになりました。

最初は慣れない所で、何もかもが分からないな  
くて大変だ。たけど、お世話になっっている学  
校の人たちに、やさしく、ていねいに教えて  
もらって、とても楽しく一カ月間を過ごす  
とができました。

三学期からは、フレハフ校舎を使っている生  
活でした。少し寒かったり、雨もりをしたり  
不便なところはあるけど、そう言うことが  
あるからこそ、友達同士での助け合いができ  
たのだと思います。たくさんの県から、励ま  
しのお手紙をいただいて、わたしは、勇気付  
けられました。

この地震で、また新たな出会いができました  
た。たくさんの人の笑顔と励ましで、わたし  
は、地震のことが、  
「ありがとう。」とい  
う感謝の気持ちに、変えられたのだと思いま  
す。  
この感謝の気持ちを忘れずに、生きようと  
思います。